



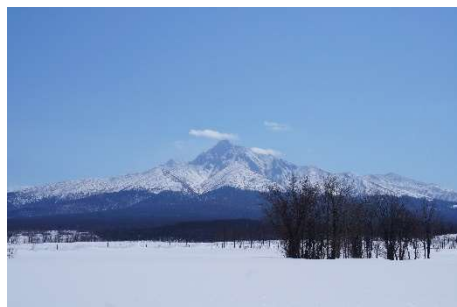
北海道

OUTLINE OF OKHOTSK 2023

サロマ湖（佐呂間町）

目次

■オホーツクの概要	1～3	置戸町	25
■オホーツクの農業	4	佐呂間町	26
■オホーツクの林業	5	遠軽町	27
■オホーツクの水産業	6	湧別町	28
■オホーツクの商工業	7	滝上町	29
■オホーツクの観光	8	興部町	30
■オホーツクの自然・環境	9	西興部村	31
■オホーツクの環境保全	10	雄武町	32
■オホーツクの暮らし	11	大空町	33
■オホーツクの防災・消防	12	■オホーツクの歴史	34
■オホーツクの交通・運輸	13		
■高規格道路整備状況	14		
■オホーツクの教育・文化	15		
■管内18市町村の紹介			
北見市	16		
網走市	17		
紋別市	18		
美幌町	19		
津別町	20		
斜里町	21		
清里町	22		
小清水町	23		
訓子府町	24		



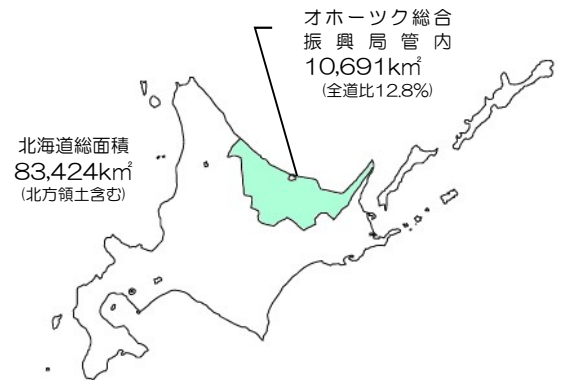
オホーツクの概要

—OUTLINE—

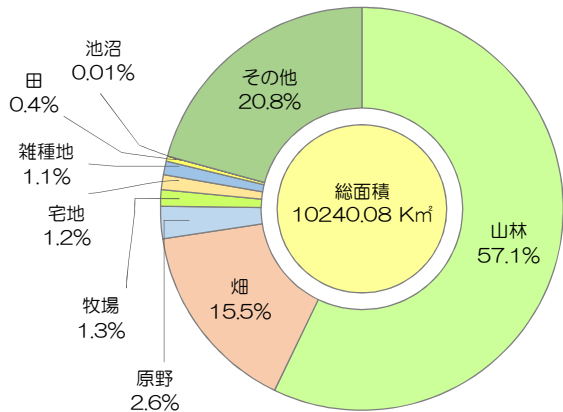
オホーツク地域（オホーツク総合振興局管内）は北海道の北東部にあつて、オホーツク海と280kmの海岸線で接しており、総面積は、10,691km²と全道面積の12.8%を占め、岐阜県を上回る広さに約27万人が暮らしています。

気候は冬期間の寒さが厳しいものの、比較的穏やかで、年間平均降水量は800ミリ前後と少なく、日照時間は道内でも比較的恵まれた地域です。

世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」をはじめとした、豊かな自然景観に恵まれているほか、1月下旬から3月にかけてオホーツクを覆う流氷は、他の地域では見ることのできないオホーツク特有のものであります。



地目別土地利用面積



(総務省「固定資産概要調査」(令和4年1月1日現在))

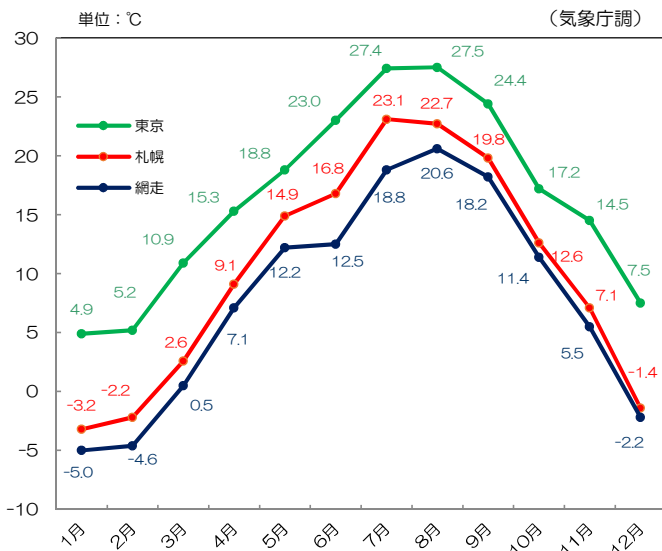
管内と他県の面積比較

順位	県名	面積(km ²)	【参考】人口(人)
1	岩手県	15,275	1,210,534
2	福島県	13,784	1,833,152
3	長野県	13,562	2,048,011
4	新潟県	12,584	2,201,272
5	秋田県	11,638	959,502
	オホーツク管内	10,691	273,362
6	岐阜県	10,621	1,978,742
7	青森県	9,646	1,237,984
8	山形県	9,323	1,068,027
9	鹿児島県	9,186	1,588,256
10	広島県	8,479	2,799,702
参考	北海道	83,424	5,224,614
参考	東京都	2,194	14,047,594

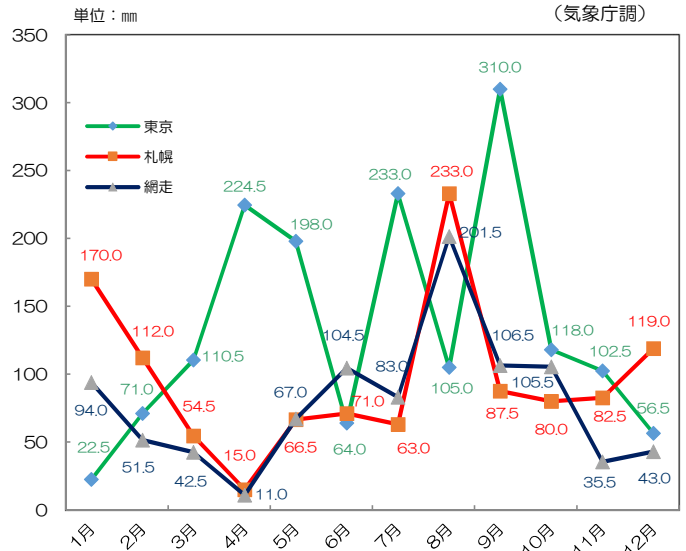
(国土地理院「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和2年国勢調査」)

気象

■月別平均気温(令和4年)



■月別降水量(令和4年)

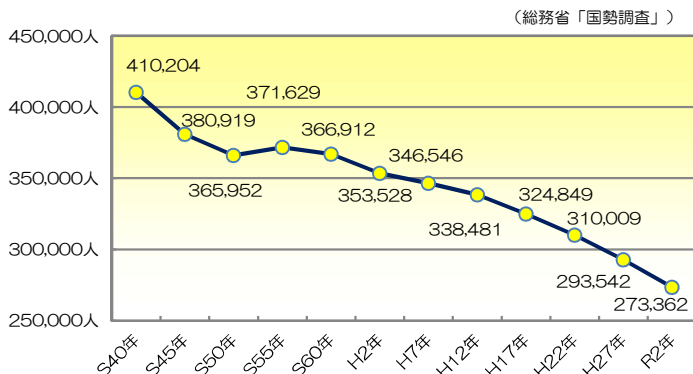


オホーツクの概要

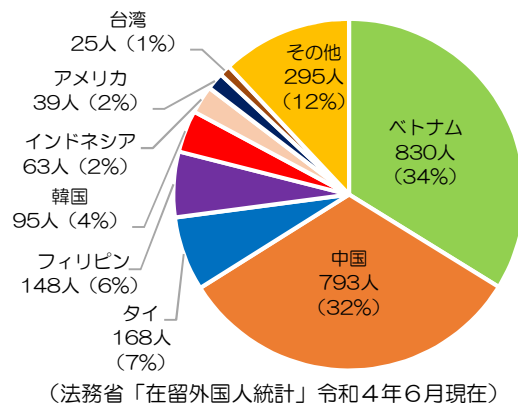
—OUTLINE—

人口

管内人口の推移



管内在留外国人国籍・地域別人員



流氷

11月上旬頃、オホーツク海の北部・アムール川の河口で氷の結晶(晶氷)が現れ始めます。この後、晶氷はだんだん増え、流氷へと成長しながら南下し、やがて沿岸部に発生している「道産子氷」と合流して、概ね1月下旬から3月中旬頃まで、北海道・オホーツク地域の沿岸で見ることができます。流氷は、近年地球温暖化等の影響により減少してきています。



シンボルマーク

オホーツク地域にお住まいの方や企業、団体が無料で使用できる、地域限定のシンボルマークです。特産品のパッケージや観光パンフレットなどに掲載され、オホーツクのPRに一役買っています。

■オホーツクール



オホーツク地域は、世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」やオホーツク海に訪れる流氷など、他の地域にはみられない自然や景観に恵まれているほか、ホタテや玉ねぎといった道内有数の豊富で良質な農林水産資源を有しています。

このような魅力溢れるオホーツクをより多くの方々に知っていただくため、管内18市町村と振興局とが連携し、「オホーツクール」をキーワードに、メディアを活用したPRやSNSによる拡散などにより、全国・全世界に向けてオホーツクの魅力を発信しています。

■つくつくオホーツくん



オホーツク

オホーツクの素晴らしさを知っていただくため、上から「天力・地力・人力」のオホーツク力を表すキャラクターと、澄み渡る空・オホーツク海の「オホーツクブルー」を表わすロゴを制定しました。

デザインは、津別町在住で著名なアーティスト大西重成さんが担当し、名称は網走支庁(当時)管内の小中学生から募集し、6,000人を越える応募の中から決定しました。「運がつく」「力がつく」の「つく」と、「オホーツク」の「ツク」をかけています。

■オホーツクブルー



オホーツク地域在住の各分野の専門家からなる「オホーツク・シンボル委員会」において、歴史・芸術・自然現象などさまざまな観点から、「最もスタンダードなオホーツクブルー」について検討を重ねました。各委員のイメージサンプルによる9色と、一般公募からイメージした1色の計10色を混ぜ合わせて、この「オホーツクブルー」が出来上がりました。

(プロセスカラー(CMYK値)：シアン(C)60%、マゼンダ(M)20%)

■オホーツク・ロゴマーク



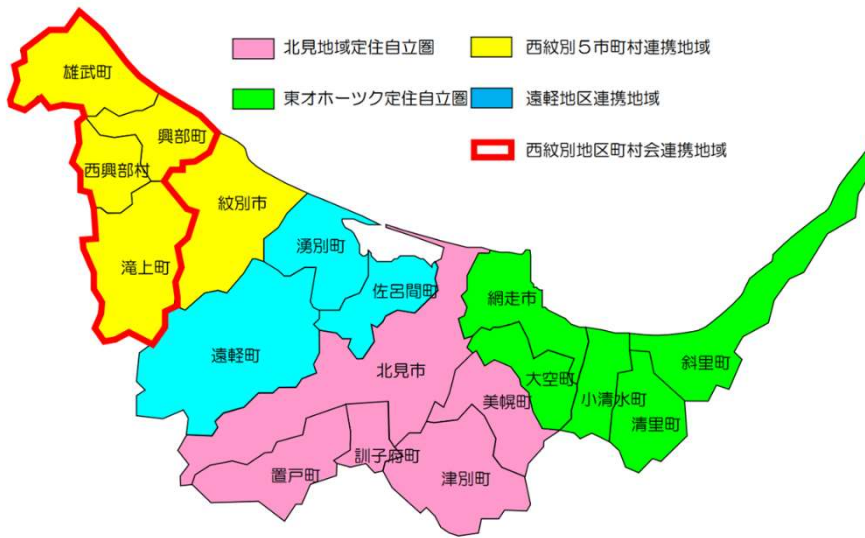
東京都のデザイナー須賀裕明氏が考案したこのロゴマークは、北海道と「オホーツク」のラインを「オホーツクブルー」で表現しています。

メインモチーフのサケの尾の部分で、みずみずしい「新芽」をかたどり、「海」「農」「林」などの豊かな資源や自然の魅力(観光)に溢れたオホーツク地域を象徴するとともに、植物が大地から大空に向かって芽生え、成長していく力強いイメージから、「新鮮な活力に満ちたオホーツク地域」、「将来へのさらなる発展」などをシンボライズしています。

オホーツクの概要

—OUTLINE—

管内の広域連携の現状



■ 定住自立圏

圏域名	中心市	近隣市町村数	中心市宣言	形成協約締結	ビジョン策定
北見地域定住自立圏	北見市	4	H31.2.28	R1.10.18	R2.3.25
東オホーツク定住自立圏	網走市	4	H22.9.2	R4.3.29	R4.12.5

■ 広域連携

連携地域名	事務局担当市町村	構成市町村数	連携協定締結	ビジョン策定
西紋別5市町村連携地域	紋別市	5	H29.3.23	H29.3.23
遠軽地区連携地域	遠軽町	3	R3.3.18	R3.3.18
西紋別地区町村会連携地域	興部町	4	R5.1.31	R5.1.31

海外姉妹都市提携市町村

市町村名	姉妹提携都市名	国名	提携年月日
北見市	エリザベス	アメリカ (ニュージャージー州)	1969.6.12
	ボロナイスク	ロシア (サハリン州)	1972.8.13
	晋州	韓国 (慶尚南道)	1985.5.16
	バーヘッド	カナダ (アルバータ州)	1991.7.4
網走市	ポートアルバーニ	カナダ (ブリティッシュ・コロンビア州)	1986.2.9
紋別市	ニューポート	アメリカ (オレゴン州)	1966.4.8
	コルサコフ	ロシア (サハリン州)	1991.1.12
	フェアバンクス	アメリカ (アラスカ州)	1991.2.8
美幌町	ケンブリッジ	ニュージーランド (ワイバ地区)	1997.10.12
津別町	二水郷	台湾 (彰化縣)	2012.10.8
清里町	モトエカ	ニュージーランド (タスマン地区)	1997.9.7
佐呂間町	バーマ	アメリカ (アラスカ州)	1980.10.28
遠軽町	バストス	ブラジル (サンパウロ州)	1972.10.18
	モラン・ア・モタ・ニ	フランス (フランシュ・コンテ州)	1998.5.22
湧別町	ホワイトコート	カナダ (アルバータ州)	1998.7.17
	セルウィン	ニュージーランド (カンタベリー地方)	2000.7.14
興部町	ステットラー	カナダ (アルバータ州)	1990.6.26

(一般財団法人自治体国際化協会 (CLAIR/クリア) 調)

オホーツクの北海道遺産

ワッカノ小清水原生花園

網走国定公園の区域に指定されているワッカ原生花園は、幅200m~700m、長さ約20kmに及び砂州に広がっており、別名「龍宮街道」とも呼ばれる日本最大の海岸草原です。小清水原生花園は、一時期、花が衰退しましたが、1993年から野焼きや球根の植栽、帰化植物の除去を行い、再び花のあふれる公園になりました。

ピアソン記念館

ピアソン記念館は、アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1914年に建てられました。夫婦は道内各地を伝道し、その終着としてアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛（現在の北見市）を選び、この地で、略註付旧・旧約聖書の出版などを行いました。廃娯運動や慈善活動など、夫婦の志は今も北見の精神文化のよりどころとして親しまれています。

森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」

「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車です。1928年、丸瀬布―武利意森林鉄道に配属され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送を行ってきましたが、1958年に廃止となり、地元の強い要望で1976年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡されました。現在も「森林公園いこいの森」で走っており、動態保存は全国で唯一です。

オホーツク沿岸の古代遺跡群

オホーツク沿岸地域では、縄文、続縄文、擦文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布し、遠軽町（旧白滝村）など内陸部では、旧石器時代の遺跡が多くみられます。オホーツク沿岸の遺跡は樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係が強く認められ、竪穴式住居が連続して残る常呂遺跡、オホーツク文化遺跡として著名なモヨロ貝塚、縄文後期の朱円周墳墓などが代表格です。

流水とガリンコ号

冬のオホーツク沿岸に押し寄せる海の邪魔者を逆手に取った流水観光。流水研究国際都市を宣言している紋別市では、アラスカの油田開発用に試験的に作られた砕氷船を「ガリンコ号」と名付け、流水の海へ乗り出しました。また、沖合約500mのオホーツクタワーでは、海底7.5mから流水観察や流水下のさまざまな生態の観測ができます。

屯田兵村と兵屋

屯田兵は1875年の札幌郡琴似村に始まり、開拓と軍備のため、1899年の土別、剣淵まで道内各地に37の兵村が置かれました。管内では、湧別町に当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残っており、屯田兵の歴史や人々の暮らしがわかる郷土博物館も設置されています。また、北見の信善光寺には、屯田兵人形75体が祀られています。

北海道の集治監

北海道は北方にある地理性から、明治期より集治監（国立刑務所）の設置が集中し、樺戸（月形町）、空知（三笠市）、釧路（標茶町）、網走（網走市）、十勝（帯広市）の順に建設され、囚人の労働・使役が北海道の内陸開発を推し進めました。管内では、網走市にある博物館網走監獄において、今も当時の施設や道具類を見ることができます。